



出題傾向

主な試験の出題傾向と、頻出分野に対応する本書の項目の一覧だよ。

ただ、判断推理の中心分野(対応関係、数量条件からの推理、順序・位置関係など)は、勉強することは一緒だから、**どれをやっても総合的に力をつく!**

だから、余り頻出度を気にしないで、まずは、一通りきちんと勉強しよう!

この資料は**参考程度**に活用してね!



国家公務員 総合職・一般職・専門職

出題傾向	位置関係、順序関係、対応関係、試合、数量条件の推理などの王道的な分野が頻出だが、#6のような変わった問題も多く、思考力が試される傾向にある。 図形分野の問題は、新試験になって出題が減っていたが、近年は以前と同様に2～3問出題されている。
特に頻出な項目	#1～6
次に頻出な項目	#7～8, #14, #16～19

裁判所職員 総合職・一般職

出題傾向	特定の頻出分野がなく、型にはまらない独特の問題が多い。また、レベルも高い。幅広く問題をこなし、考える力を養うことが必要である。 図形分野も、想像力を要する難問が多い。
特に頻出な項目	#1～6, #11
次に頻出な項目	#7～9, #14, #16～20

地方上級 全国型・関東型・中部北陸型

出題傾向	位置関係、対応関係などの王道的な分野からの出題が多い。ここ数年、変わった問題が多かったが、最近は一般的な内容に戻る傾向にある。 図形分野では、パズル系を中心にやや変わった問題が出題されている。 近年は、全国型と中部・北陸型は共通、関東型は何問か少なく構成されている。
特に頻出な項目	#2～6, #14
次に頻出な項目	#1, #7～9, #15～20

東京都I類A・B

出題傾向	判断推理の出題数は少ないが、順序関係、位置関係は比較的よく出題されている。 図形(空間観念)は4問(新方式は5問)で、軌跡は毎年出題されている。他にパズル問題や展開図なども頻出である。
特に頻出な項目	#1～2, #14, #16, #19
次に頻出な項目	#3, #5, #7, #17～18, #20

特別区I類

出題傾向	位置関係、試合、暗号の問題がほぼ毎年のように出題されている。 図形(空間把握)は3問で、軌跡が毎年出題されており、パズル系の問題も多い。 油分け算や一筆書きなどマイナーな問題も、他と比べるとよく出題されている。
特に頻出な項目	#2, #4, #11, #14～16
次に頻出な項目	#5, #13, #18～19

※情報は2015年度試験終了時のものです。

更新情報は、こちらに掲載いたします。

www.exia-pub.co.jp